

交流をうながし、にぎわいを創出する「市民活動のコア」

敷地の場所性を大事にし、今ある施設と連携することにより、行政サービスを提供しやすくするだけでなく、市民同士の自然なふれあいを通して、まちづくりに参画していくことのできる場をつくります。

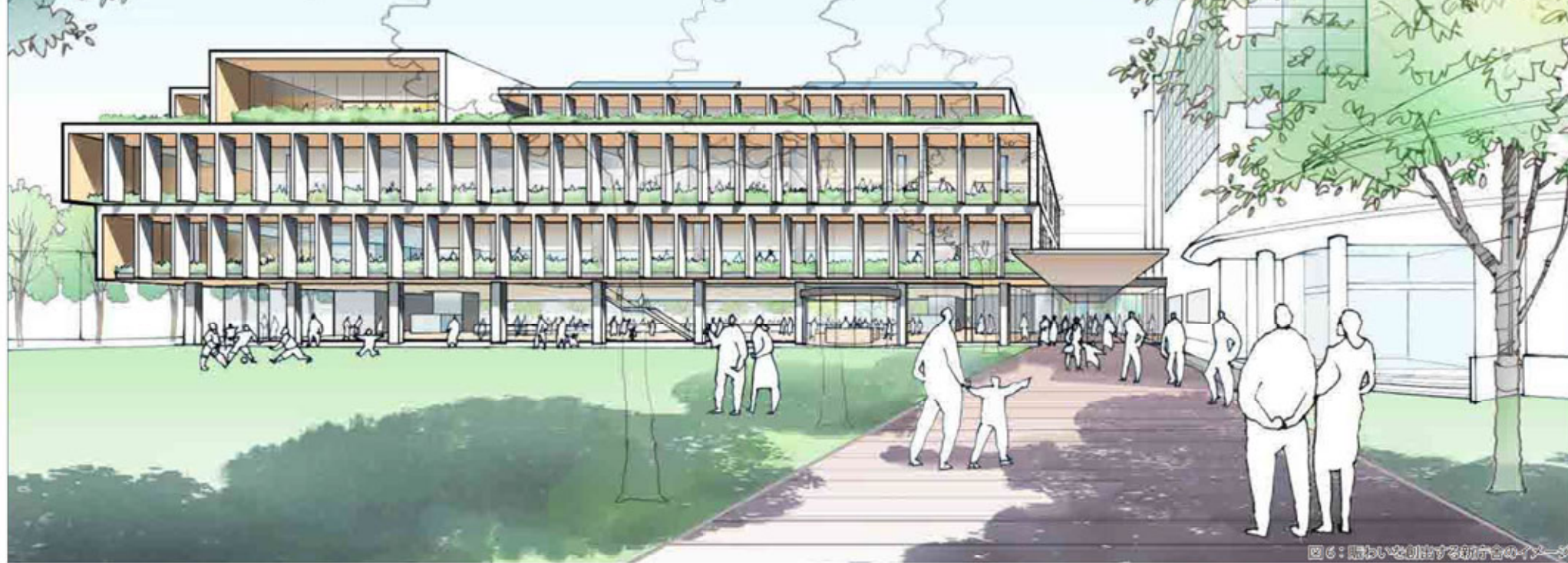


図6：賑わいを創出する新庁舎のイメージ

テーマ1 誰もが立ち寄りやすい市民に開かれた庁舎

1. 「並列配置」による明快な敷地利用

鹿児島島の強い陽射しを制御し、自然通風・採光を実現するデザインの「新庁舎」を敷地中央に、「ふれあいセンター」と並列配置します。南北にオープンスペースを設け南北両面に開かれた計画とします。

①中央公園：多様な活動自体が「まちの顔」となる市民に親しまれている中央公園の機能を継承しながら、多様なエリアを設けます。子どもからお年寄りまで安心・安全に時を過ごす姿が旧駅前エリアの新たな「顔」となります。

②駐車場：利便性を高め、歩車分離を徹底 130台の駐車場と65台の駐輪場を北側に集約し、中央公園と完全に歩車分離します。

③ふれあいパサージュ：明快なアプローチ 中央公園と駐車場を結ぶ「ふれあいパサージュ」により、バス利用者、車利用者ともにわかりやすく来庁できます。

④連携ロビー：2棟がつながる市民スペース 庁舎の待合とアトリウムが一体となった「連携ロビー」は多様な市民の活動の場であり、その活動は「芝生ひろば」とも連続します。



図7：北側イメージ



図8：2棟の相乗効果を最大限に発揮する配置計画

テーマ2 利用者へのサービス向上と効率的な行政経営を実現する庁舎

2. コンパクトで機能豊かな空間構成

①コンパクトな新庁舎

「新庁舎」は「ふれあいセンター」と各階で接続するユニバーサルデザインとし、共用利用によるコンパクト化で移動距離も短い計画です。



図9：2棟の連携利用が可能な断面構成イメージ

②シンプルで機能的な安心して過ごせる庁舎

「左右対称」、「各階共通」の明快な空間構成とし、執務室を中心に南側は市民サービスゾーン(待合)、北側は職員サポートスペースを設けることで機能性を高め、業務効率とサービスの質を向上させます。

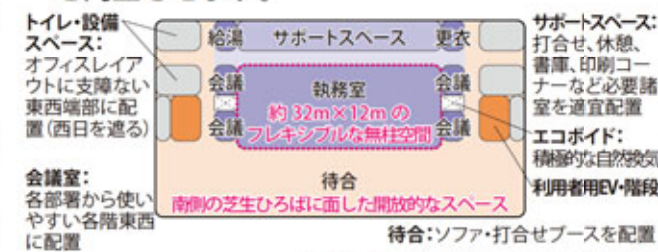


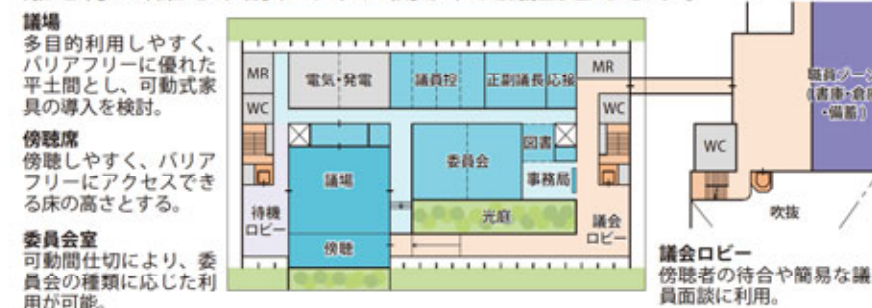
図10：各階共通のわかりやすい基準プラン



図11：プライバシーへの配慮

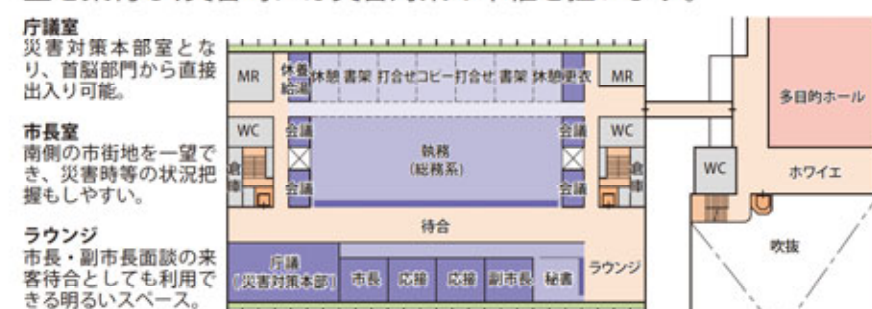
4F: 議会部門フロア

議会の独立性を確保した上で、議員、執行部、市民の明快な動線分離を行い、誰もが訪れやすい開かれた議会とします。



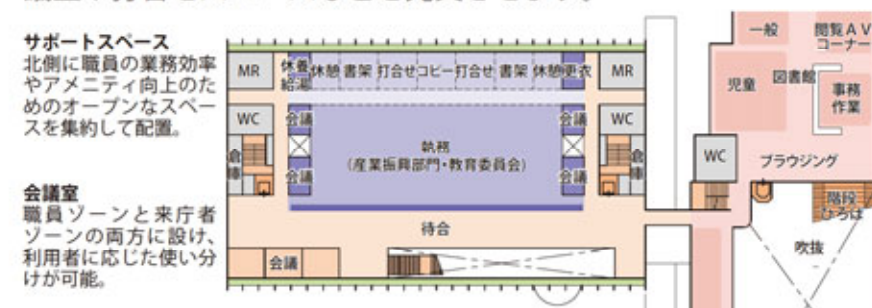
3F: 総務部門・首脳部門・防災フロア

総務・財政・企画政策課など首脳部と関わりの強い部門や庁議室を集約し、災害時には災害対策の中核を担います。



2F: 産業振興部門・教育委員会フロア

執務室は約32m×12mが無柱の柔軟性の高い空間です。また会議室や打合せスペースなどを充実させます。



1F: 窓口部門フロア(市民・税務・福祉・水道課)

1階に集約した窓口はエントランスから一目で見渡せます。個別相談に対してはプライバシーに配慮した相談室を多く設けます。



図13：各階プランイメージ